

U.S. Indicators

発表日:2020年3月6日(金)

米国製造業にも新型肺炎の影響(20年2月ISM製造業指数)

～ヘッドラインの数字が示すよりも実態は悪化～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

ISM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
19/02	54.1	54.9	55.4	53.2	51.6	55.3	52.3	49.4	52.8	55.3
19/03	54.6	55.5	55.1	57.1	50.6	54.9	50.4	54.3	51.7	51.1
19/04	53.4	53.1	54.3	52.4	52.4	54.8	53.9	50.0	49.5	49.8
19/05	52.3	52.5	52.0	53.1	51.4	52.5	47.2	53.2	51.0	49.4
19/06	51.6	50.5	52.4	54.3	49.4	51.2	47.4	47.9	50.5	50.0
19/07	51.3	51.1	51.3	51.3	49.3	53.5	43.1	45.1	48.1	47.0
19/08	48.8	47.6	48.9	47.6	48.4	51.6	46.3	46.0	43.3	46.0
19/09	48.2	48.5	48.4	46.5	46.3	51.3	45.1	49.7	41.0	48.1
19/10	48.5	48.9	46.3	47.9	49.4	50.1	44.1	45.5	50.4	45.3
19/11	48.1	46.8	48.0	46.8	47.2	51.7	43.0	46.7	47.9	48.3
19/12	47.8	47.6	44.8	45.2	49.2	52.2	43.3	51.7	47.3	48.8
20/01	50.9	52.0	54.3	46.6	48.8	52.9	45.7	53.3	53.3	51.3
20/02	50.1	49.8	50.3	46.9	46.5	57.3	50.3	45.9	51.2	42.6

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

20年2月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、50.1と製造業の拡大を示す水準を維持したが、前月比0.8%ポイント低下した。米企業は米中貿易戦争に伴う関税引き上げを受け中国依存のサプライチェーンの見直しを進めていたことや、旧正月の休暇に備えて在庫を増やしていたことによって生産が拡大を続けられた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた供給の停滞によって入荷遅延が大幅に上昇したことで製造業景気指数が押し上げられており、ヘッドラインの数字が示す以上に実態は悪化している。実際、企業からの報告は、新型コロナウイルスの感染拡大によるサプライチェーン毀損への懸念を示すものが多かった。米製造業活動は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中国の製造業活動の失速によるサプライチェーン毀損の世界的な影響によって鈍化している。今後数か月、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、ISM製造業景気指数は50を再び下回って推移するとみられる。

2月の構成項目別の動きをみると、新型コロナウイルスの中国での感染拡大によって、供給が滞り入荷遅延が上昇したほか、グローバルな製造業の鈍化等によって新規受注が縮小した。その結果、生産、輸入、在庫が低下した。一方、雇用指数は水準が低いものの、労働力不足を受け前月から上昇した。

構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延(前月比+0.88%p)、雇用(前月比+0.06%p)が押し上げ寄与となった一方、生産(前月比▲0.80%p)、在庫(前月比▲0.46%p)、新規受注(前月比▲0.44%p)が押し下げ寄与となった。

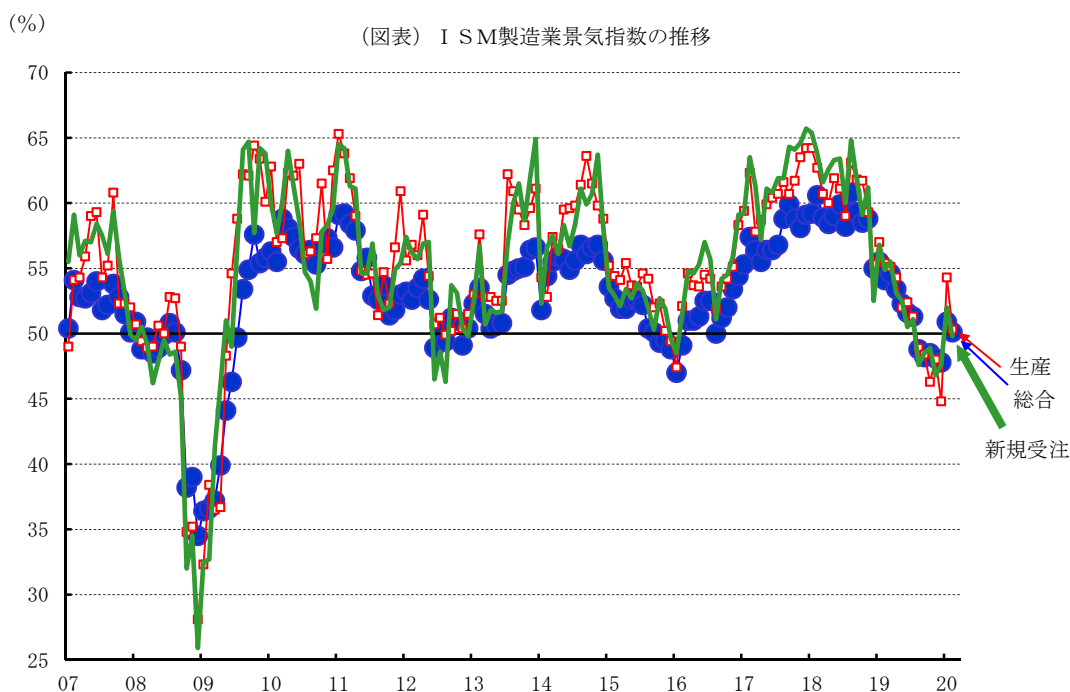
サブ項目では、輸出受注DIは、51.2と主要国・地域の製造業活動の縮小の動きなどを受け、前月から低下しており、輸出の鈍化を示唆している。また、輸入DIは42.6と大幅に低下、輸入の減少幅拡大を示している。

インフレ関連では、仕入価格が45.9と前月から7.4%p低下した。価格が低下した商品は、アルミニ

ウム製品、銅、コルゲート、原油、天然ガス、ポリプロピレン、スクラップ、スチール熱間圧延・スチールステンレスなど。川上での物価上昇圧力が弱まっていることが示された。

2月の製造業景気総合指数を構成する生産、入荷遅延が拡大縮小の分岐点である50を上回り、ISM製造業景気総合指数は製造業の拡大を示す水準を維持した。また、2月に拡大した業種は18業種中14業種に増加した（1月に拡大した業種は18業種中8業種）。総合（全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、木材製品、家具・同関連、プラスチック・ゴム、印刷・関連サポート活動、紙製品、繊維、一次金属、食品・飲料・タバコ、コンピューター・電子機器、その他製造業、電気設備・部品、加工金属、一般機械、化学製品の14業種と前月から増加した。主要6業種では今月も食品・飲料・タバコが最も強い産業部門だった。次いで、コンピューター・電子機器だった。一方、縮小した業種は、非鉄、石油・石炭、輸送機器の3業種と前月の8業種から減少した。アパレル、は変わらずとなった。主要6業種では石油・石炭が最も弱い部門だった。

最後に、米経済全体とISM製造業指数の関係では、ISMによると2月の50.1という水準はこれまでのGDP成長率との関係から、実質GDPが+2.1%成長と潜在成長率の+1.8%を上回っていることを示すと指摘。これは、1-2月期の米経済が潜在成長率を上回る成長率に加速していたことを示唆している。



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。